



年間第 20 主日 (ヨハネ 6:51-58)

口のある者は食べなさい

「ユダヤ人たちは、『どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか』と、互いに激しく議論し始めた。」(6・52) ユダヤ人のつぶやきは、現代人も含めイエス・キリストという食べ物を知らない多くの人のつぶやきでもあります。私たちもユダヤ人のつぶやきを出発点に、今週の糧を頂きましょう。

ユダヤ人のつぶやきに答えを得るヒントを見つけました。共観福音書の中に、「耳」に関連する次のような戒めがあります。「耳のある者は聞きなさい」この表現がマタイ・マルコ・ルカの中に出てきますが、これは今週のユダヤ人のつぶやきに答える強力な説明となるでしょう。

もちろん、耳が備わっていない人はいないわけですから、この場合「聞く耳のある者は聞きなさい」ということです。マルコ4章9節やルカ8章8節がそれに当たるでしょう。同様の箇所をマタイはあえて「耳のある者は聞きなさい」とだけ書きます。13章9節がそれに当たりますが、間違った読み方をするはずがないという前提でしょうか。

いずれにしても、イエスが「耳のある者は聞きなさい」「聞く耳のある者は聞きなさい」と念を押す時、話を聞いている人々は準備が必要になります。耳は備わっているのです。ですがあなたの耳はイエスの言葉を謙虚に聞く状態になっていますか？と問われているのです。

同じように、イエスがご自分をパンとして示す時、聞いている人はこのパンを食べる口を用意していなければならないのです。「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」(6・51)

「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」ユダヤ人たちは口は備わっていても、生きたパンを食べる準備ができていませんでした。いつの時代でも、準備がととのっていないければ天から降って来た生きたパンに触れることはできません。

ときおり耳にするでしょう。葬儀ミサの中で中田神父は聖体拝領に移っていく直前、参列者の皆さんに「聖体拝領の準備ができている方は列にお並びください」と案内をしています。イエスという生きたパンに触れるためには、心と体がふさわしい状態である必要があるのです。

私たちはこのミサに、生きたパンに触れるために、集まりました。命の糧をいただくのに、どんな準備をしたのでしょうか。列聖されたマザー・テレサは、最も小さな人にお仕えする時、イエス・キリストをいただくと言っていました。人に示した愛や、ゆるしで心の準備をすることもできるでしょう。イエスは福音朗読を通して、「食べるにふさわしい口のある者は食べなさい」とおっしゃっています。